

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079100154		
法人名	有限会社ライフ企画		
事業所名	グループホームなのはな	ユニット名	
所在地	福岡県みやま市高田町黒崎開697-1		
自己評価作成日	平成25年4月15日	評価結果市町村受理日	平成25年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階		
訪問調査日	平成25年6月17日	評価確定日	平成25年8月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「なのはな」は、高田町西部の田園風景に囲まれた所にあり、自然に恵まれている。ホームの敷地内には、大きな壺のオブジェがあり、その周りには四季を感じさせる花々や、旬の野菜が採れる菜園がある。木製のベンチもあり、庭でくつろげるスペースとなっている。ホームはオープンテラスとなっており、そこから小学生の登下校の様子が見え、ご利用者は手を振られ、笑顔で挨拶をかわされている。職員は、ご利用様が思いのまま過ごせるように、その方のペースに合わせた支援を心がけ、穏やかな時間を一緒に過ごしている。代表は、「職員を大切に」と常日頃言っており、管理者も職員の声的大事にしており、何かを決める時には必ず職員と話合って決めている。また、外部研修を出来るだけ受講できるよう、職員の育成に取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームなのはな”のリビングは明るく、ご利用者が作られた貼り絵等も飾られている。職員の手料理は美味しく、ご利用者の方々も食欲旺盛で元気に過ごされている。リビングから続くウッドデッキにはベンチがあり、ご利用者と職員が仲良く座り、会話を楽しまれている光景も日常で、“ご自分の足で歩く”事を大切にされた支援も続けられ、介護計画にも盛り込まれている。ご利用者の信仰も大切にされ、4の付く日の“地藏さん参り”も職員と一緒にいき、般若心経をあげる姿も見られている。ホームを“ひとつの地域に根ざした生活共同体”として捉え、地域の方と野菜などを分け合う関係も継続されている。昇る太陽に感謝する気持ちを忘れず、“共感できる場”を大切にすると共に、職員全員がお互いを認め合う関係性の構築にも努めている。今後も管理者を中心に、職員の個性を結束したチームワークを作り続けていく予定にしている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、理念を皆で読み合わせ、1日をスタートしている。地域の方にも行事に声かけし、交流が深まっている。	“1.敬愛の念を持ち、お世話させていただきます”と言う理念には、“自立支援”の視点が含まれている。歩行できる方も多く、転倒にも配慮したケアをしている。ご利用者と職員と一緒にテラスで日向ぼっこをしながら、地域の子供達に手を振る姿も日常になっている	“敬愛”を大切に、職員同士の挨拶や声かけ、相手を思いやる気持ちを深めていきながら、更なる“チームワーク”を作っていきたいと考えている。ボランティア情報も集めており、絵手紙やハーモニカを演奏して下さる方との交流の機会を増やしていく予定にしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方が来て下さる時は、地域の方にも声かけし、良き交流の場となっている。いきいきサロンには、ご利用者と参加しており、小学生との交流も楽しみとなっている。	“お話しの会”の方が紙芝居等をして下さったり、敬老会には踊りのボランティアの方も来て下さっている。代表と管理者の地元でもあり、近所の方とは顔見知りで、収穫された野菜なども分け合っている。地域の祭りやいきいきサロンにもご利用者と参加しており、保育園児との交流も楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を届ける際、お話ししたり、ボランティア行事等、地域の方々の参加もあり、その時に周知に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご家族、市職員、民生委員の方等が参加していただき、意見交換を行っており、会議前後に、ご利用者と団欒されている。	会議では毎月の行事報告や暮らしぶりの報告が行われ、参加者の方から意見を頂いている。外部評価結果を報告した時も「大変ですね。頑張っていますね」等のお言葉を頂いた。長崎のホーム火災後に警察の立ち入り調査もあり、災害対策の話し合いも行われた。	今後も運営推進会議で、より多くの方の意見を頂きたいと考えている。地域の区長にもご挨拶を行い、参加頂けるように働きかけると共に、消防団との関係作りも行っていく予定にしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回のグループホーム協議会で市役所の方や民生委員、他2ヶ所のホーム職員も出席しており、意見交換を続けている。	25年に市の実地指導でケアプラン等の指導を頂き、すぐに改善に取り組まれた。グループホーム協議会には市役所の方も来て下さり、意見交換を続けている。協議会や関連施設、市の方にも広報誌を渡し、ホームの取り組み状況の報告も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者も鍵をかけないケアを大切にし、職員も理解している。代表が(社長)お話し相手になって下さる事も多く、ご利用者の気持ちの把握に努めている。	身体拘束は全く行っていない。身体拘束の外部研修に参加したり、疾患の勉強会も行われ、行動の背景を分析する取り組みも続けられている。職員の関わりも優しく、穏やかなご利用者が多いが、「帰りたい」と言う思いを大切に把握し、毎週自宅に帰られる方もおられる。利用者同士の交流の中で助け合いも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	人間の尊厳の根幹をなす法律ともいえる為、毎月のカンファレンスで認識を深め、重要事項説明書の中にも利用者の権利の中で、明文化をはかり周知をはかっている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームにパンフレット等を備え付けており、新しく入居される方を含めて制度の説明をしている。制度の必要な人が、適宜利用できるよう支援している。	権利擁護の研修会に出席している。現在、制度を利用されている方はおられないが、家族関係を含めて制度の必要性の確認が行われている。必要に応じて、相談窓口をご紹介できる体制もできている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の認識度に応じ「重要事項説明書」「契約書」の明文化されたサービス体系から順序だて説明している。退所の事態が生じた時には、家族、かかりつけ医の意見を聞いた上で総合的に判断している。また、必要に応じてご家族と共に医師の元に向いたり幅広いコンセンサスに努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族は、支払いも兼ねて毎月来訪して下さり、要望等をお聞きするようにしている。“家族会”は行っていないが、年1回の敬老会で、家族間の交流がある。	“なのはな通信”を作成し、家族に郵送している。家族代表の方が運営推進会議にも参加して下さり、日々の暮らしぶりへのアドバイスも頂いている。家族の面会時にお話をする機会が作られ、行事の後にも家族から意見を伺う場を設けている。	面会時にも意見を伺っているが、今後も声かけを増やしていく予定にしている。“絵手紙”のレクも開始し、“絵手紙”を家族の方々に送る等、家族との交流の機会を増やしていきたいと考えられている。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスの時に、連絡事項の共有を行い、各ケア内容についてアイデアや意見を聞いている。	勤務年数の長い職員も多く、カンファレンスの時にも意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。行事や外出に関しても、職員から「今は菖蒲は見頃！」などの意見が積極的に聞かれ、実践に繋げている。ケアの場面でも悩みなどを管理者に伝えており、職員それぞれの個性に応じたチームワークを作り続けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設以来4週8休の堅持、年休取得についても協力し合える組織作りができています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別や年齢を理由に採用対象から排除することはない。職員についても、その能力を十分生かせるように配慮している。	採用時は優しさや穏やかさを大切にしている。採用後も職員個々のレベルに応じて研修に参加できるように調整したり、料理が上手など、それぞれの職員が個々の能力を發揮できるように配慮している。全員正社員であり、働きやすい環境を作るための取り組みを続けている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、職員と一緒にケアを行いながら、ご利用者の意向や要望などを大切に把握するように伝え、代表(社長)も、お1人お1人のご利用者を大切にされており、その姿勢を通して、職員への良き教育となっている。	言葉を発した後に自ら反省する姿も見られている。会議の中でも、ご利用者の信仰している宗教を大切に、ご利用者の意向や要望などを大切に把握するように伝えられている。“余裕”を持って仕事ができるように勤務調整に努めており、研修に関しても勤務扱いにしている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	旧職員6名は、すでに実践者研修を受講しており、2名の新職員も受講できる年数になり、受講してもらう事にしている。他の研修にも出来る限り参加して、職員のレベルアップをはかっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に入会しており、他のグループホームとの交流の機会となっている。また、近隣のグループホームとも定期的に定例会を開催しており連携をはかっている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員2人による事前面会を実施。また、入居までに期間がある場合は、ご本人に当ホームに来て頂き(交通手段がない場合は、お迎えに行く)感想や表情、反応を見させていただく。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じて利用される本人とは別の時間に、キーパーソンになられるご家族に、何故GH利用を選択されたのか経緯を聴く中で現在困っている事、ご家族が入居後に不安や疑問に思う事を相談できる体制作りをしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容や公的介護保険サービス、福祉サービスの利用状況や家庭環境によって、居宅支援事業所や関係諸機関を紹介したり、共に出向いたり、電話の取次ぎをさせていただいている。		
20		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとつの地域に根ざした生活共同体としてとらえ、互いに生活者として実感する生活のあり方を目指しており、昇る太陽に感謝したりしながら共感の場を大切にして、お互いに認め合う関係性の構築に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭環境、または居住地によりご訪問が限られるご家族の気持ちを第一とし、日々のご本人の暮らしや気持ちのゆれ等を客観的に伝えられるように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に通われていたデイサービスの職員さんが来苑されたり、入居前から行かれていた信仰に関わる場所(4の日に地藏さん参り等)に職員と出かけたり、地域の交流会にも外出されている。	知人の方や家族の訪問時にはリビングで過ごされ、一緒にお茶を楽しまれている。家族と一緒に親戚の仏壇参りに行かれたり、馴染みの美容室に出かける方もおられ、地域の生き生きサロンにも外出し、馴染みの民生委員との交流も行われている。今後は更に生活歴も記録に残していく予定である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活者として、実感しあえるように、洗濯物整理等の協働の場を創出し、お互いに感謝の言葉が自然に出るような関係作りに努め、共同作業が苦手な方でも疎外された存在とならないよう、保持する能力が活かせるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、退去先に自然な形で訪問し、関係性の維持をはかっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	4ヶ月に1回、ご利用者とご家族と面談しているが、日々の生活の中でご利用者の思いを把握し、面会時にご家族の意向もうかがっている。ご利用者が思いを語って下さるよう、話しやすい雰囲気を作っており、意思疎通が困難な方には、職員がそばに寄り添い、表情等も含めて思いを汲み取る努力をしている。	一緒にじゃがいもの皮をむいたり、もやしの根切りをしながら思いを語って下さる方も多く、入浴時には生活歴や信仰等を教えて下さっている。テレビ番組を見ながら外出の希望が聞かれる時もあり、叶えるようにしている。家族からも、ご本人の嗜好などの情報を教えて頂いている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申請時からの聞き取りに始まり、待機期間、ご訪問時、そして入居後の関係性が構築される中で無理のない形で把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムの把握に努め、日内変動が顕著な方には、その変動を可能な限り把握した上でその時その時の声かけ、関係性のあり方を試行している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画には、洗濯物たたみ等の役割を記載し、地域の方との交流等も盛り込んでいる。個別記録の表紙裏には介護計画を貼り、計画に即した記録をしている。毎月の特記が1枚で見れるシートもあり、ご家族への説明にも使っている。	“食事を美味しく食べる”事や、“ご自分の足で歩けるように”と言う視点と共に、“携帯電話を使用しての家族との交流”や地藏さん参り等も継続できるように、介護計画が作成されている。認知症専門医からのアドバイスも頂き、日々のケアに活かすようにしている。	今後もより“自立支援”の支援を大切にしながら、支援内容と共に、ご本人の能力(できること)を丁寧に把握し、計画に盛り込んでいく予定である。職員全員で、ご利用者の“強さ(能力と役割)”を引き出す取り組みを続けていきたいと考えている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを基本として、日課生活記録並びに食事、水分、排泄、バイタル、体重変化等の身体状況や生活記録を整理して、いつでも職員が閲覧できるように保管し、日頃からの熟読を義務付けている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の家族が面会に来られる際、近隣の駅まで送迎を行ったり、宿泊が必要な際には、その支援を行えるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、地域の方々が気軽に立ち寄られ、小学生、中学生の訪問もあり、関係性の強化、維持に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院介助は職員が行うが、ご家族が介助される時は、日頃の様子を職員がご家族に伝え、受診結果の報告も密に行っている。往診時も含め、医師との情報交換も行い、症状に応じて薬を減らして下さるなどの医療連携ができています。かかりつけ医の看護師とは、24時間相談できる体制もできています。	協力医療機関の医師とは相談しやすい関係であり、毎週の往診をご利用者も楽しみにされている。先生からも「ここは落ち着いているね」と言うお褒めの言葉を頂いている。看護師は勤務していないが、介護職員の観察力が深く、早期発見に繋げる事ができ、緊急時の対応も機敏にできています。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との契約をされたご利用者は、週1回の往診、健康管理、心身の状態変化に応じた支援体制で速やかに組めるようになっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	要入院時には、病室に入られるまでどのような時間帯でも付き添い、病棟看護師には当ホームの職員が必ず申し送るようにしている。要手術の時にはご家族と待機し、術後の経過も同意の上、一緒に聞くように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今まで、看取りの経験は無いが、希望があれば医師と連携しご家族との話し合いも続けながら、ぎりぎりまでホームで対応していく予定である。往診で対応できなくなった場合は、医師の指示のもとで入院の検討をする予定であり、ご家族もホームの方針は理解して頂いている。	看護師が勤務しておらず、「看取りはしない」という方針になっている。協力医療機関が病院と施設を持っており、必要に応じて紹介して頂ける体制があり、訪問看護を受ける事もできる。重度化しないように“ご自分の足で歩く”事を大切にされており、ベランダでの日向ぼっこも日課となっている。ご利用者は風邪もひかずに過ごされ、食欲旺盛で元気に過ごされている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「応急手当と事故発生時の対応の仕方」との書をいつでもスタッフが見れるよう、ボード横に下げている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回総合訓練を行い、その際地域の方も参加して下さっている。昨年は2回夜間想定避難訓練を行った。	スプリンクラーを設置している。25年3月には職員とご利用者、地域の方と水消火器も使用しての訓練が行われた。「火事を出さない」と言う思いで日々の防災対策も取られており、長崎のホーム火災後後も警察からのアドバイスを基に更なる改善も行われた。災害に備えた備品や食料も準備し、漏電対策のチェックも毎月続けている。	2年前には、消防署の方から「避難する際には、部屋の中に人がいないかを確認してドアを閉める」等のアドバイスも頂いた。25年10月には消防署の方にも協力して頂き、訓練を行っていく予定にしており、消防団との連携も深めていきたいと考えている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人研修の際に、管理者がプライバシー保護について指導を行っている。入室時には必ず声かけしたり、失禁時には、他のご利用者に悟られない対応をするなど、自尊心、羞恥心への配慮も続けている。	“敬愛の念を持ち”と言う理念を毎朝唱和し、繰り返しの言葉が聞かれる時は傾聴し、場合によっては職員が交代して対応している。ご利用者同士のトラブルが見られた時も職員が間に入り、仲良く生活できるように配慮している。馴れ合いにならないように言葉遣いにも配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に考えて頂く等の待ちの介護を重視し、ゆったりとした関わりを持つ中、意思表示の場面が少しでも多く出るように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者本人の意思を尊重して、希望に添って臨機応変に対応するようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれへの関心等は個人差があるが、近隣の洋装店に同行したり、個人に応じた対応をさせて頂いている、季節感やご本人の色の好み等を把握されたご家族の支援を得て、個性としておしゃれが維持されるよう努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームに畑もあり、新鮮な野菜(ねぎ、玉葱、じゃがいも、かぼちゃ等)を食べる事ができ、食事の準備や後片付けなど、できることを手伝ってもらっている。外食も楽しまれており、今後も行事計画に盛り込んでいきたい。	3食とも職員が料理をされている。ご利用者がホームの畑からネギの収穫などもして下さり、もやしの根切りや包丁を使っての料理もされている。嚥下状況に応じて食事の固さを変えたり、栄養バランスにも配慮し、旬の食材を採り入れた献立作りをしている。職員も一緒に食事を食べられている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事量、水分摂取量を記録し、嗜好品を一緒に買いに行ったりし、生活リズムに添った支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来ないご利用者様には、毎食後口腔ケア介助している、義歯については就寝前に必ず洗浄剤による管理を支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアプランにもトイレでの排泄支援を盛り込み、排泄パターンに応じた誘導を続けることで、失禁がないようなケアを目指している。	排泄が自立している方も多く、お屋は布パンツの方もおられる。トイレのドアの色が黄色であり、間違わずにトイレに行かれている。夜間のケア内容も計画に盛り込まれ、統一したケアの実践に努めている。排泄時はドアを開めると共に、周囲の方に気づかれない声かけにも配慮しており、失禁が減ってきている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄チェック表で排泄状況を把握し、早めに冷たい牛乳等を飲んでもらいながら、自然なかたちで排泄されるよう努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日沸かしており、利用者の希望に応じて入浴を楽しむことができる。職員との会話を楽しみ、歌が聞こえてくる事も多く、みかん風呂、菖蒲湯等、季節に応じた入浴も楽しませている。	入浴の順番や入浴への意向も伺いながら、叶えるようにしている。3方向から入浴できる浴槽で、お風呂場も広く、滑らないように職員は配慮している。拒否が見られる方には家族の協力を頂くと共に、入浴時の声かけの工夫も続けている。お風呂好きな方が多く、昔話に花が咲いており、入浴剤も種類を変えて楽しませている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食を終え辺りが暗くなり就寝に至るまで、精神的にもクールダウンするような落ち着いた雰囲気づくり(照明、話題、テレビの音等)に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに、薬状はすぐ見れるようファイルしており、理解できるようにしている、また、往診時や電話でもドクターやナースに質問している。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者と一緒に畑の豆をちぎったり、歌を唄ったり、買物に行く等、普段の楽しみごととして、それぞれが好きなことを行うことができるように支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買物、お参り、ドライブ等それぞれの希望に応じた外出の機会を多く持っている。また、季節に応じて、花見をし、レストランでの食事も楽しまれている。	天気の良い時には庭に出て、小学生の登下校の見守りをされている。諏訪公園の花見の時には子供達の遊ぶ姿を見られたり、買い物に行き、洋服や折り紙等を買われるのも楽しみの一つとなっている。地藏参りに行かれた時は般若心経をあげる姿も見られている。テレビを見ながら、ご利用者から「新大牟田駅で新幹線を見たい」等の声も聞かれ、叶えていく予定にしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	若干、管理能力が不十分なご利用者でも、ご本人が希望された場合は、ご家族に一時的に紛失される可能性を理解して頂いた上で自己管理していただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、事前にご家族の了解を得た上で希望者には、事務所の電話を使用してもらっている。以前していた絵手紙は、ご無沙汰となっている、また始めたいと思っている「スタンプ絵等も」。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く、窓も大きく明るい。リビングには木製の安定感ある大きなテーブルや椅子、ソファがあり、思い思いの場所で過ごされている。	リビングからは行き交う車や登下校する小学生等を眺める事ができる。畑や木々の緑も見え、テラスのベンチでの日向ぼっこも日課となっている。台所と事務所の周囲に各部屋があり、職員の立ち位置によっては見えない場所もあり、夜動も含めて物音を含めた気配りを続けている。畳が無く、椅子での生活でもあり、足を上げるための足台作り等も検討されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の心のあり様に応じて、自分の場がみつかるようにソファ、テーブルを配置し、ロビーからはオープンテラスそして庭に出られるようにしており、自らの居場所を選択できるように配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者とご家族と相談し、ご本人が安心して生活できるような部屋作りが続けられている。居住されている年月と共に、各部屋がご自分の部屋になっていかれている。	ベッド等はホームで準備している。大切な仏壇と共に、写真、鉢物、ぬいぐるみ等も持ち込まれている。ご自身が作られた貼り絵等の作品を飾られ、子供達にプレゼントしている方もおられる。小学生からの手紙を窓に貼っている方や、家族が持参された花に、ご本人が水やりして年中花を咲かせている方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	門扉から玄関入り口まで点字ブロック、スロープの設置、上下可動式の手摺りを含め、要所要所に手摺りを設置しサポート出来るようにしているが、基本的には過剰な介助とならないように注意し、人的対応による生活支援をその基本としている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	“敬愛”を大切に、職員同士の挨拶や声かけ、相手を思いやる気持ちを深めていきながら、更なる“チームワーク”を作っていきたいと考えている。ボランティア情報も集めており、絵手紙やハーモニカを演奏して下さる方との交流の機会を増やしていく予定にしている。	皆で理念を共有する。	ボランティアさんの来苑回数を増やし、家族や地域の方にも声かけし交流を深める。	3 ヶ月
2	10	面会時にも意見を伺っているが、今後も声かけを増やしていく予定にしている。“絵手紙”のレクも開始し、“絵手紙”を家族の方々に送る等、家族との交流の機会を増やしていきたいと考えられている。	家族との交流を深める。	絵手紙等、ご家族に送り交流を深める。	6 ヶ月
3	28	今後もより“自立支援”の支援を大切にしながら、支援内容と共に、ご本人の能力(できること)を丁寧に把握し、計画に盛り込んでいく予定である。職員全員で、ご利用者の“強さ(能力と役割)”を引き出す取り組みを続けていきたいと考えている。	ご利用者の出来る事を増やす。	センター方式を、とり入れる。	24 ヶ月
4	4	今後も運営推進会議で、より多くの方の意見を頂きたいと考えている。地域の区長にもご挨拶を行い、参加頂けるように働きかけると共に、消防団との関係作りも行っていく予定にしている。	区長さんの推進会議参加、消防団との連携。	区長さん、消防団の方との交流を深める。(催し事に案内し、まず、知ってもらう)	12 ヶ月
5	37	2年前には、消防署の方から「非難する際には、部屋の中に人がいないかを確認してドアを閉める」等のアドバイスも頂いた。25年10月には消防署の方にも協力して頂き、訓練を行っていく予定にしている。消防団との連携も深めていきたいと考えている。	消防署と消防団との連携。	10月の避難訓練では、消防署の指導をお願いする。	2 ヶ月